

平成29年2月15日(水)
第2回運営委員会資料(岩手県)

平成28年度 情報発信事業 開催実績

イベント名/会場	日時	テーマ/講師・パネリスト
1 平成28年度第1回 いわて復興未来塾 ホテル東日本盛岡 (参加者 約170名)	H28.6.18(土)	<p>テーマ:本格復興の完遂へ向けて～今後の課題と展望～</p> <p>【挨拶】 「国における復興の取り組み～これまでとこれから～」 岡本 全勝 氏 (復興庁事務次官)</p> <p>【報告1】 「復興から未来へ～キリン絆プロジェクトの取り組みについて～」 林田 昌也 氏 (キリン株式会社 CSV推進部長)</p> <p>【報告2】 「「サヴァ缶」にみるマーケティングの重要性」 高橋 大就 氏 (一般社団法人 東の食の会 事務局代表)</p> <p>【パネルディスカッション】 「三陸の本格復興に向けて」 コーディネーター 江幡 平三郎 氏 (㈱IBC岩手放送 アナウンス部 部長) パネリスト 林田 昌也 氏 高橋 大就 氏 君ヶ洞 剛一 氏 (㈲ヤマキイチ商店 専務取締役) 達増 拓也 岩手県知事</p>
2 平成28年度第2回 いわて復興未来塾 宮古市民文化会館 (参加者 約170名)	H28.8.7(日)	<p>テーマ:いわて三陸の復興を“希望あるふるさと”につなげる</p> <p>【報告】 「三陸地域における課題と地域振興方策」 藻谷 浩介 氏 (株式会社日本総合研究所 調査部 主席研究員)</p> <p>【パネルディスカッション】 「復興から希望あるふるさとへ～三陸の底力～」 コーディネーター 植田 真弘 氏 (岩手県立大学宮古短期大学部 学部長) パネリスト 藻谷 浩介 氏 山本 正徳 氏 (宮古市長) 達増 拓也 岩手県知事</p>
3 いわて三陸復興 フォーラム(県外) メルパルク長野 (参加者 約250名)	H28.12.3(土)	<p>テーマ:分かち合おう、自然災害への備え。復興力。</p> <p>【鼎談】 「地域で進める災害からの復興」 登壇者 菊池 聡 氏 (信州大学 地域防災減災センター センター長) 阿部 守一 長野県知事 達増 拓也 岩手県知事</p> <p>【パネルディスカッション】 「地域の復興力」 コーディネーター 松井 慎央 氏 (信濃毎日新聞社 編集局報道部次長) パネリスト 佐々木 慶一 氏 (大槌町安渡町内会 会長) 柏原 周平 氏 (長野県白馬村 旅館「木塵」 代表取締役) 君ヶ洞 剛一 氏 (㈲ヤマキイチ商店 専務取締役) 竹森 恒平 氏 (岩手県県土整備部建築住宅課 技師)</p>
4 いわて三陸復興 フォーラム(県内) 併催 平成28年度第3回 いわて復興未来塾 アイーナ 小田島組☆ほ～る (参加者 約250名)	H29.1.21(土)	<p>テーマ:震災・復興の後世への継承</p> <p>【基調講演】 「「命の軌跡」は訴える～震災犠牲者の行動記録から～」 鹿糠 敏和氏 (岩手日報社編集局報道部次長)</p> <p>【事例発表】 「震災・復興の後世への継承」 事例発表者 松岡 朝美 氏 (グーグル 防災・復興プロジェクト,Google Earth Outreach プログラムマネージャー) 齊藤 賢治 氏 ((一社)大船渡津波伝承館 館長) 元田 久美子 氏 ((一社)宮古観光文化交流協会 学ぶ防災ガイド)</p>
5 平成28年度第4回 いわて復興未来塾 ホテル東日本盛岡	H29.3.18(土)	<p>テーマ:未定</p> <p>【報告】 「未定」</p> <p>【パネルディスカッション】 「未定」</p>

東日本大震災の記憶風化防止イベント

～東京都と東北4県では、支援を呼びかけるイベントを同日に開催します～

青森県八戸市「館鼻岸壁朝市」



岩手県宮古市「たろう観光ホテル」



3.11

忘れないが
支援の新たな一歩となる

宮城県気仙沼市「岩井崎 龍の松」



2017年3月3日(金)

会場 東京国際フォーラム

ステージイベント【ホールB7】



入場
無料

I部 11:30～13:00

II部 13:30～16:00

東京から元気を届けよう!

復興応援
2017

支援が生んだ「絆の輪」

青森県・岩手県・宮城県・福島県 東北4県

東日本大震災
復興フォーラム

in
東京

主催 東京都・(株)東京国際フォーラム

後援:岩手県・宮城県・福島県・東京商工会議所

主催 東北4県・東日本大震災復興フォーラム実行委員会

構成団体:青森県・岩手県・宮城県・福島県 共催:東京都

後援 復興庁・東京商工会議所・一般社団法人 日本経済団体連合会・公益社団法人 経済同友会

物販・飲食【地上広場】

- ◇郷土料理の販売
- ◇観光PR
- ◇県産品の販売

11時から
17時まで

サブステージ【ホールB7】

- ◇「被災地の今」写真パネル展
- ◇映像コーナー(震災アーカイブ)
- ◇メッセージコーナー

※イラスト・画像はすべてイメージです。※イベント情報は平成29年1月20日現在のものです。内容が変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

FSC®森林認証紙、インク/UVインキ(石油系樹脂0%)など印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場で製造されています。



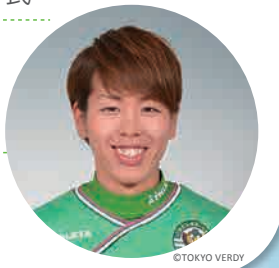


入場
無料

I部 11:30-13:00

東京から元気を届けよう! 復興応援2017

- ◎主催者あいさつ
東京都知事 小池 百合子
- ◎語り部による講話
閉上震災を伝える会 高野 俊伸 氏
- ◎支援の呼びかけ
日テレ・ベレーザ 岩清水 梓 氏
2011年女子W杯初優勝なでしこジャパンメンバー
- ◎合唱



©TOKYO VERDY

II部 13:30-16:00

支援が生んだ「絆の輪」 青森県・岩手県・宮城県・福島県 東北4県 東日本大震災 復興フォーラム

in
東京

基調講演 復興から未来へ～キリンが目指す、地域社会への貢献～



キリンホールディングス株式会社
兼 キリン株式会社
代表取締役社長

磯崎 功典 氏
Yoshinori Isozaki

事例発表 復興の先進事例から生まれる「絆の輪」

- 株式会社ゼネラル・オイスター
代表取締役CEO 吉田 琇則 氏 Hidenori Yoshida
- ヤフー株式会社
コーポレート統括本部プロデューサー
兼 東北共創チームリーダー
須永 浩一 氏 Koichi Sunaga
- 株式会社カタログハウス 取締役
株式会社C.H.リテイリング
代表取締役 斎藤 憶良 氏 Okura Saito

～伝統芸能～
国指定重要無形民俗文化財
岩手県
宮古市 黒森神楽



物販・飲食【地上広場】

こちらの会場は
11:00～17:00まで
お楽しみ
いただけます

食べて
応援

郷土料理の販売
岩手県・宮城県・福島県の
郷土料理の販売、無料提供(数量限定)



買って
応援

県産品の販売
岩手県・宮城県・福島県
青森県、熊本県の特産品販売

行って
応援

観光PR
旬の観光情報の発信

サブステージ【ホールB7】

知って
応援

・「被災地の今」写真パネル展
・映像コーナー(震災アーカイブ)



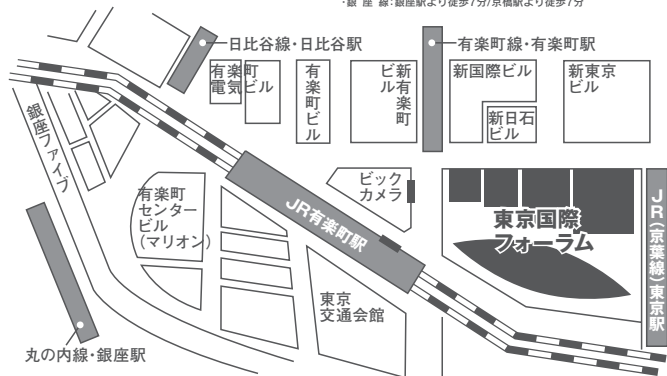
ホタテ絵馬

・みんなで書いて、届けよう!「メッセージコーナー」
◆青森県八戸市「八幡馬」 ◆岩手県恋し浜駅「ホタテ絵馬」
◆宮城県仙台市「七夕短冊」 ◆福島県「キャンドルホルダー」

TOKYO INTERNATIONAL FORUM
東京国際フォーラム

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5-1

アクセス
(JR線)
・有楽町線より徒歩1分(JR国際フォーラム口)
・東京駅より徒歩5分(京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡)
(地下鉄)
・有楽町線:有楽町線D5出口より徒歩1分(B1F地下コンコースにて連絡)
・日比谷線:銀座駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩7分
・千代田線:二重橋前駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩7分
・丸の内線:銀座駅より徒歩5分
・銀 線:銀座駅より徒歩7分/京橋駅より徒歩7分



ステージイベント申込フォーム

FAXまたは電話、ホームページからお申し込みいただけます。

FAX.019-654-4192

インターネットホームページ
からの申し込みは

<https://fukkou-forum.jp>

★定員[400名]に達し次第募集終了。 ★募集期間終了後にご招待はがきを郵送いたします。

ご希望のコースを ○で囲んでください。	I部 〈復興応援2017〉	II部 〈復興フォーラム〉	I・II部 両方	参加人数
代表者お名前 (必須)				
ご住所 (必須)				
お電話番号	メールアドレス			

電話での申込
問い合わせ先

TEL.019-625-1342

※電話問い合わせ時間 9:00～17:00(土日祝日を除く)

※インターネットまたはFAXでお申し込みの場合は、募集期間内のいつでも受付いたします。
※空席がある場合は、当日受付もいたします。
※お申し込み時にいただいた個人情報は、本フォーラム以外の目的には一切使用いたしません。

締切
平成29年
2月20日(月)まで

・・託児室あります・・

- 定員7名(申込順)
- 対象は1歳以上の未就学児。要予約
- 申込先
東日本大震災風化防止
イベント事務局

TEL.019-625-1342

※2月22日(水)17時締切

将来にわたって持続可能な新しい三陸地域の創造を目指す

三陸創造プロジェクト

1 考え方

東日本大震災津波により甚大な被害を受けた三陸地域の早期の復旧、復興はもとより、長期的な視点に立ち、多くの人々をひきつけ、多様な人材が育まれる、将来にわたって持続可能な新しい三陸地域の創造を目指す。

三陸地域においては、東日本大震災津波の発生以前から課題とされてきた人口減少の進展に加え、復興事業の減少などによる地域の社会経済の活力の減退によって、産業や地域コミュニティの担い手の不足、消費需要の減少による地域経済の縮小などが懸念される。

一方で、沖合に黒潮と親潮が交錯する世界有数の漁場や、我が国を代表する優れた海岸美、海底・海中資源活用の可能性など、「海」の資源が豊富であるとともに、心のゆとりを実感できる風土のもと、人々の粘り強さや、人と人とのつながりの中で培われた思いやりの精神により、安らぎのある暮らしを実現していく環境に恵まれている。

また、三陸地域では、国において復興に向けたリーディングプロジェクトとして位置付けられた「復興道路」の早期整備に向けて、かつてないスピードで取組が進められているほか、三陸鉄道による久慈～盛岡の一貫経営、宮古～室蘭間のフェリー航路開設などが予定されている。

これらの交通ネットワークの整備は、物流の効率化や産業拠点との連携・連絡の強化、救急医療施設への搬送時間の短縮など、暮らしと産業を支えるとともに、災害時には緊急支援物資等の効率的で確実な輸送や迅速な復旧活動が可能となるなど、内陸と沿岸、沿岸南北の地域間交流・連携の促進のほか、国内外との取引拡大や交流人口の拡大などが期待される。

「三陸創造プロジェクト」は、長期的な視点に立つうえで、三陸地域が持つこれらの特性と環境変化を最大限に生かしながら、そこで展開される生き方、暮らしやなりわいが生み出す「三陸ブランド」を確立させることで、より多くの人々をひきつけ、さらに交流・連携を深めることで多様な人材が育まれる将来にわたって持続可能な新しい三陸地域の創造を目指すものである。

2 「三陸創造プロジェクト」の特徴

横断性	復興基本計画において、「第4章 復興に向けた原則と具体的取組」に掲げる10分野の取組とともに、目指す姿の実現に向け、これらの分野を越えて横断的に取り組むもの。
創造性	地域における新しい価値の創造を目指しながら、県民に夢と希望をもたらす取組として実現を目指すもの。
独自性	三陸地域の産業や暮らし、歴史・文化、地理的条件などを踏まえ、三陸らしい地域資源や特性などを最大限に生かしていくもの。
長期性	計画期間内での一定の成果を目指しつつも、より長期的な展望を踏まえ、計画期間を越えて取り組んでいく必要のあるもの。 永続的に取り組むべきもの。
多様な主体との連携	復興に向けて、県民はもとより、関係団体、企業、NPOや大学等の高等教育機関など、多様な主体とともに連携していくという計画推進の考え方にに基づき、幅広く意見や提言を伺いながら、具体化を進めていくもの。

3 5つのプロジェクト

「三陸創造プロジェクト」では、新しい三陸地域の創造を象徴する5つのプロジェクトを掲げ、具体的取組を推進していく。5つのプロジェクトごとに、「目指す姿」を掲げ、その実現に向けて、各プロジェクトが連携しながら、その取組を進めていくものである。

第3期では、「ふるさと振興」の考え方を踏まえ、新たな三陸地域を築いていくためのアイデアや事例を整理した「三陸復興・振興方策調査報告書」*を参考とするとともに、新たな交通ネットワークの形成や復興まちづくりの進展に伴う環境変化、ラグビーワールドカップ2019™の釜石開催の決定などの新たなトピックスを考慮して、各プロジェクトがより具体で実効性の高いものとなるよう、展開の方向や取組内容を再構成した。

(1) 『さんりく産業振興』プロジェクト

安全・安心で高品質な製品の提供や高い生産性と収益性を実現する農林水産業の振興、三陸地域の資源を生かした地場産業の振興や新産業の創出などにより、広く三陸地域全体の産業の振興を図る。

(2) 『新たな交流による地域づくり』プロジェクト

復興活動を契機とした交流人口の拡大や、豊かで多彩な自然環境、地形・地質、岩手の風土に根ざした歴史の中で育まれた文化遺産や伝統芸能などを生かした地域ツーリズム等の展開を通じて、新たな岩手ファンや観光客などとの交流拡大により、三陸地域における一層の観光振興、定住・交流の促進を図る。

(3) 『東日本大震災津波伝承まちづくり』プロジェクト

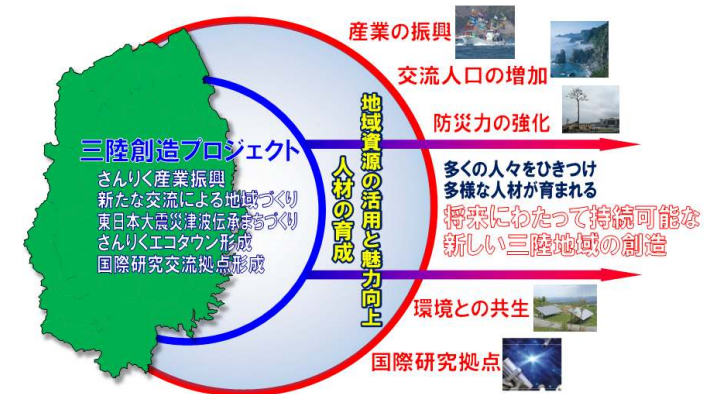
東日本大震災津波により被災された方の故郷への思いや未曾有の大災害から得た経験を確実に次世代に継承し、その教訓を「防災文化」として将来に生かすことによって、いわての防災力向上など災害に強いまちづくりを推進する。

(4) 『さんりくエコタウン形成』プロジェクト

三陸の地域資源を活用した再生可能エネルギーや省エネルギー技術の導入を促進し、災害にも対応できる自立・分散型のエネルギー供給体制を構築することにより、環境と共生したエコタウンの実現に向けた取組を推進する。

(5) 『国際研究交流拠点形成』プロジェクト

三陸地域における「海」や「地質」などの資源や潜在的な可能性を生かしながら、国際的な研究プロジェクトの実現や、海洋研究の国内外研究者等の調査・研究活動の促進とネットワークの形成などを通じて、三陸から世界をリードする国際研究拠点を形成する。



* 三陸復興・振興方策調査報告書：岩手県復興局が平成27年度に取りまとめた報告書。中長期的な視点や広域的な観点に立ち、新たな三陸地域を築いていくためのアイデアや事例をプロジェクトの形で整理したもの。

さんりくチャレンジ推進事業による起業等の状況について

県では、今年度から、沿岸 12 市町村で起業や新事業にチャレンジする方を総合的に支援する「さんりくチャレンジ推進事業」を実施していますが、1 月までにこの事業により起業や新事業に取り組んでいる事業者についてお知らせします。

1 初期費用の補助を活用する事業者

地元商工会・商工会議所等による事業計画策定支援、岩手県商工会連合会による専門家派遣等のブラッシュアップ支援を通じ、事業計画の熟度が十分高まったと判断される事業者（14 事業者）

事業者名	事業実施地	区分	事業概要
徳田京子	大槌町	創業 (女性)	地元間伐材を活用したオリジナル木工製品の開発・製造・販売
武藤理徳	山田町	創業 (女性)	低糖類・低カロリーのスイーツの製造販売
小林麻喜	宮古市	創業 (女性)	乳製品・健康機能飲料等の宅配・小売販売
ロッツ(株)	陸前高田市	新事業活動	理学療法士等の指導による介護予防フィットネスジムの運営
清水健太	陸前高田市	創業 (若者)	気仙・三陸沿岸の魅力発信に貢献する映像制作事業
(株)ひろの屋	洋野町	新事業活動 (若者)	北紫ウニの鮮度向上加工法の確立及び新たな販路開拓・ブランド化
平谷東英	野田村	新事業活動	高品質な傷物果実や野田村ブランドポークを活用した菓子・惣菜製造販売
小笠原哲史	釜石市	新事業活動 (若者)	菌床開発ノウハウを活用した新商品開発及び高級いたけ市場への参入
小野寺信子	野田村	新事業活動 (女性)	農家レストランを活用したセレモニー事業及び新商品開発
(株)八木澤商店	陸前高田市	新事業活動	新スタイルの和カフェ及び地域食材を活用した高付加価値商品の開発
木村里美	大槌町	新事業活動 (女性)	大槌復興絵はがき、カレンダー等の企画・製作・販売
(有)赤崎商店	大槌町	新事業活動	震災語り部・音楽イベント・街ゼミ開催による震災アーカイブ喫茶店事業
(有)橋勝商店	陸前高田市	新事業活動	地域内企業の連携による提案型パーソナルギフトの開発
(株)エイワ	釜石市	新事業活動	いわて発高付加価値合金コバリオンの素材特徴を活かしたジュエリー開発

2 クラウドファンディングを活用する事業者

特定非営利活動法人 wiz が実施する助言・支援等により、クラウドファンディングを通じて資金調達をする事業者（4 事業者）

プロジェクト名	市町村	区分	立案者名	目標金額	状況
「みんなでくじTを着よう！ 縫製の街・久慈を盛り上げたい！」	久慈市	H28 創業	香取正博	100 万円	達成済 (144.7 万円)
「陸前高田市永住宣言～映像制作はじめました～」	陸前 高田市	H28 創業	清水健太	50 万円	達成済 (64.8 万円)
「本州最東端のまち・宮古市をヨガの街に！」	宮古市	H27 創業	金澤拓実	10 万円	達成済 (16.6 万円)
「陸前高田に全ての市民の健康を守るフィットネスクラブを！」	陸前 高田市	H28 新事業	ロッツ 株式会社	150 万円	募集中

【参考】さんりくチャレンジ推進事業の概要

若者や女性をはじめとした、被災地における新たなビジネス立上げへのチャレンジを支援し、復興まちづくりに合わせたなりわいの再生を図っていくことを目的として実施。

(1) 支援対象者

沿岸 12 市町村において、新たに起業、第二創業又は新事業活動に取り組もうとする者

(2) 支援内容

① 起業等前の支援

若者や女性をはじめとした起業家やその予備軍、既存事業者、支援機関等の交流により、起業等の意識啓発や協力関係の構築を促進。

② 起業等に向けた支援

地域の商工会などの支援団体等が連携し、相談対応や助言・指導により、事業計画の策定などを支援。

③ 起業等に要する初期費用の補助

支援を通じて事業計画の熟度が十分高まったと判断される起業家等に対し、県が初期費用を補助し、起業等を後押しする。

- ・ 対象経費 備品購入費、広告宣伝費など
- ・ 補助上限 200 万円
- ・ 補助率 一般の起業家等 2/3、若者・女性 5/6 ※ 若者：4月1日時点で39歳以下の者

④ 資金調達の支援

クラウドファンディングの活用に係る助言・指導や説明会の開催等により、起業家等のクラウドファンディングによる資金調達を支援。

⑤ 起業等後の支援

地域の支援機関や協力企業等と連携し、起業後等の経営指導や首都圏等へのPR、販路開拓等を支援。

【さんりくチャレンジ推進事業のイメージ】



いわて三陸 復興のかけ橋 プロジェクト

いわて未来づくり機構
(事務局 岩手県政策地域部政策推進室)



I いわて三陸 復興のかけ橋プロジェクトとは

1 概要

東日本大震災津波からの復興に当たり、**行政が主体となった取組だけでなく、広く県内外に開かれた取組が重要** との考えのもと、「いわて未来づくり機構」※が母体となり、**民間等のアイデア・行動力を活用**する取組として本プロジェクトを展開(平成23年12月から)

※岩手県内の産学官57団体によるネットワーク組織(事務局:岩手県政策推進室)

プロジェクトのミッション

課題感 (ヒアリング等を踏まえて)

- ・企業には支援したいという気持ちがあるが、被災地の状況が分からないことから、どのような支援をしたら良いか判断する材料があれば
- ・被災地支援のしたいが、被災地側で支援の受け入れをする企業・団体の情報がない

- ・震災復興に対する関心は、首都圏以西では確実に低下しており、特に岩手県からの情報発信量は福島・宮城に比べて少ない
- ・現場で活動する団体は、活動で手一杯で情報発信まで手が回らないので、情報発信を容易にする何らかの方法があれば助かる

- ・復興支援団体の撤退やボランティアの減少、活動資金の減少などにより、団体間のネットワーク機能が低下しつつある
- ・復興支援に関する情報はバラバラでなかなか集まりにくい。情報が得られるサイトやネットワークがあれば活動しやすい

ミッション

〈復興支援マッチング〉

県内外からの復興支援に係るご提案や被災地の要請を受け、双方のマッチングを行います

〈復興関連情報の発信〉

岩手の震災復興の「今」を情報収集、発信の方法やルートなどを工夫して県内外へ情報を届けます

〈復興支援ネットワーク強化〉

さまざまな交流・情報交換の機会を通じて、県内外の企業・団体等の「つながり」を維持・強化します

I いわて三陸 復興のかけ橋プロジェクトとは(続き)

2 取組内容

一般社団法人RCFへの委託やいわて三陸復興のかけ橋推進協議会※による活動を通して、以下の復興支援の取組を展開。

※岩手県などで構成する復興支援を目的とする組織
(事務局:岩手県政策推進室)

(1)復興支援マッチング

■ **沿岸被災地からの支援要請やニーズ**(こうした支援が必要、こうした支援を受けたい)と**県内外からの支援提案**(こうした支援を行いたい、こうした支援なら可能)を**収集**、県内外の企業・団体等とのネットワークを生かして**双方をマッチング**

■ **支援ニーズに合わせた2体制によるマッチング展開**

① **中長期的視野**に立った**産業再生やコミュニティ再生**など**地域振興**に寄与する**マッチング**(販路拡大や商品開発等)に注力
首都圏をはじめとする県内外の企業・団体等に対し、今後の**ビジネス展開**につながる**協働事業**など、**CSV**に基づくような**新たな復興支援誘致活動**を進める(一般社団法人RCF委託)

② **物資供与やボランティア派遣調整、イベント開催等の短期的なマッチング**は「いわて三陸復興のかけ橋推進協議会」に**復興支援員を配置**して展開



I いわて三陸 復興のかけ橋プロジェクトとは(続き)

2 取組内容

(2) 復興関連情報の発信

新たなつながりや風化防止に資するため、**復興支援ポータルサイト「いわて三陸 復興のかけ橋」**やSNS等により、支援マッチングの情報、復興関連トピックスなど、様々な情報を効果的に発信



復興支援ポータルサイト いわて三陸 復興のかけ橋 <http://iwate-fukkou.net/>

ポータルサイトによる発信

ツイッター、フェイスブックによる発信

(3) 復興支援ネットワークの強化

① 岩手かけ橋共創ネットワークの構築

首都圏において参加企業・団体をネットワークでつなぎ、復興や地方創生に向けた情報共有・意見交換の場を設け、効果的かつ発展的なマッチングへ

② 沿岸地域の関係機関・団体等との連携・協力関係強化

沿岸各地域の関係機関等で構成する各種連絡会議への参画や、復興支援員等による訪問・取材等を通じ、連携を強化するとともにネットワークを構築・強化



II 主なマッチング実績（一般社団法人RCF委託）

日本ゼトック株式会社による復興支援

- 1 日本ゼトック社は本プロジェクトのマッチングにより、平成26年度から久慈市・新山根温泉「べっぴんの湯」化粧品の販路開拓支援を展開
- 2 平成27年度、新たに岩泉乳業社・岩泉産業開発社との支援マッチングが成立、新製品（龍泉洞の水を使用した化粧水）開発に着手
- 3 平成27年9月より開発会議を開始、平成28年5月に記者発表、平成28年6月より販売を開始。
- 4 今回の商品開発では、開発にかかる諸費用を日本ゼトック社が負担、商品化まで全ての責任を持って支援。販路開拓は、双方が協力して取り組むこととしている。



2015.12.15
Vol.1

NEWS LETTER

発行：かけ橋プロジェクト事務局（一般社団法人RCF）
※RCFは平成27年度いわて三陸復興のかけ橋推進業務受託実施者です

メディアの皆様へ

このニュースレターは、「いわて三陸 復興のかけ橋」プロジェクトの実際の活動事例を紹介するものです。このプロジェクトは、産学官のネットワーク組織「いわて未来づくり機構」を母体とし、県内外からの中長期的視野に立った効果的な復興支援活動を促進するため、復興支援マッチングを推進するものです。今年度は、RCFが岩手県より業務を受託しています。

岩泉乳業・岩泉産業開発×日本ゼトック、新製品開発中！

岩手県岩泉町が有する龍泉洞、日本三大鍾乳洞の一つとされ、ここで湧き出る水は世界でも有数の透明度をもち、弱アルカリ性で「日本一美味しい水」とも言われています。この水を使ってこれまで商品を製造販売してきた2つの企業、岩泉乳業株式会社と株式会社岩泉産業開発が今、当「いわて三陸 復興のかけ橋」プロジェクトのマッチングにより、東京の企業と組んで龍泉洞の水を使った化粧水開発に取り組んでいます。

連携するのは、化粧品や高機能口腔ケア商品のOEM事業を主軸とする日本ゼトック株式会社（本社：東京都新宿区）。東北復興応援を目的に、会津でも地域の酒蔵とともに商品化した「会津はまれ化粧水」が人気となるなど、現地素材の化粧品原料化を得意としてきました。

開発会議は9月から始まりました。三者および「いわて三陸 復興のかけ橋」プロジェクト関係者が集まり、議論を重ねています。龍泉洞の水を活用する今回の商品開発では、開発にかかる諸費用を日本ゼトック側が負担し、商品化まですべての責任を持ちます。販路開拓については、岩泉乳業および岩泉産業開発が担いますが、日本ゼトック側でも協力し、一緒に盛り上げていく予定です。

新商品は、来年6月ごろをお披露目の場として想定しています。道の駅など、県内での販売から始めていく予定です。「まずは地元で愛されるものをつくりたい、多くの方に使っていただけるものにした」と日本ゼトック 商品企画開発部長の大谷さんは意気込みを述べています。

今後も、当ニュースレターで開発の進捗をお伝えしてまいります。どうぞご期待ください。

《報道関係のお問合せ》
かけ橋プロジェクト事務局（一般社団法人RCF） 担当：荻布（おぎの）、秋保
E-mail:kakehashi_info@rcf.co.jp / TEL:03-6447-0041

第2回開発会議では早速数種の化粧水サンプルが持ち込まれ、女性達が心地心地を比較した



〔完成した色鮮やかなボトルの「龍泉洞の化粧水」〕

TER

洞の一つ、龍泉洞

国の天然記念物、龍泉洞。岩手県の中央部〜町にあり、透明度の高い水は町内中心地区の水道レウォーターとしても販売されています。龍泉洞の水は、落葉した腐葉土や地中の石灰岩が湧出しています。そのため、カルシウムやマグネシウム分の多い良質な水となっています。岩泉産業開発の水はたびたびモンドセレクションにて最高金賞品質の高さが認められています。

岩泉産業開発

畜産加工「短角牛肉加工」を活用した商品を製造販売し、2002年に社団法人収益事業部門を株式会社に

代表取締役社長 伊達 勝身（岩泉町長）
代表取締役社長 山下 欽也

岩手県下閉伊郡岩泉町乙茂字和乙茂8-1

<岩泉乳業株式会社>

森に囲まれた岩泉町の大自然のなかで育った牛のミルクやヨーグルトなどの乳製品を製造販売している。岩泉町の第3セクター。龍泉洞の水を使った「龍泉洞地サイダー」も販売

代表取締役社長 伊達 勝身（岩泉町長）
代表取締役社長 山下 欽也

岩手県下閉伊郡岩泉町乙茂字和乙茂8-1

〔開発状況を伝えるプレスリリース。継続してマッチング状況等を情報発信〕

Ⅱ 主なマッチング実績（一般社団法人RCF委託）

プライスウォーターハウスクーパース株式会社による復興支援

- 1 PwC社は岩手県沿岸広域振興局とアライアンスを締結（平成26年9月）、沿岸局管内の事業者に対して経営指導支援等を展開
- 2 当該経営指導支援の他地域への横展開を当プロジェクトでマッチング調整
- 3 平成27年12月には、岩手県の県北広域振興局が主催する「地域産業応援セミナー」に同社担当者が登壇。管内の事業者に対して、これまで同社が震災後に岩手県沿岸地域で展開してきた経営支援の事例を踏まえて見えてきた課題や必要となる対応策等を提示
- 4 この取組を手始めとして、継続的な復興支援について引き続き検討を進めている



三井物産株式会社による復興支援

- 1 被災地域で同社が手掛ける「未来への教科書～For Our Children～」出前授業プロジェクトが介在
- 2 県教育委員会を通じた事業周知等への協力のほか、県立久慈東高校（平成27年12月4日、平成28年12月9日）、大船渡市立吉浜中学校（平成28年1月29日、平成29年1月31日）での実施に協力
- 3 今後、当該出前授業プロジェクトの実施を端緒として、キャリア教育分野での三井物産株と被災地域との中長期的な関係づくりに向けて引き続き調整を進めている

